

2022（令和4）年度 学校評価報告書

重点目標：1 主体的に学べる教育活動の円滑な実施 2 教職員の視野を広げ、自ら行動し新たな課題に挑戦する組織運営を目指す 3 学生確保対策強化の継続 神奈川県立よこはま看護専門学校

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		外部評価委員の評価 (3月10日)	総合評価(3月28日実施)	
		具体的な方策	評価の視点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	次年度の取組方針
1 教育活動	<p>1. 主体的に学べる教育活動の円滑な実施</p> <p>1) 教育理念に基づいた新カリキュラムを実施</p>	<p>1.ヒューマン・ケアリングの講義 学習状況の把握</p> <p>2.ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをふまえたカリキュラム全体の把握 特に新規科目や関連科目の学生の学習状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の強化 ・地域・生活の視点 ・多職種連携 <p>3.臨床判断能力の育成にむけた教育方法の検討 学生の「気づき」を促す講義や演習の工夫</p> <p>4.シミュレーション教育の推進に向け領域との連携</p> <p>5.情報通信技術(ICT)の推進に向けた方法の検討 電子教科書や機能を活用した学習方法の工夫</p> <p>6.教務や各担当とカリキュラム実施状況の情報共有や調整</p> <p>7.教員研修企画(例 ICTシミュレーション)</p> <p>8.外部講師や実習施設への情報提供や意見交換、連携依頼</p>	<p>授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション・高性能モデル人形(scenario)、新実習室の活用状況 ・ナースングスキル活用数 ・教育用電子カルテの活用状況 ・電子教科書の活用状況 ・授業資料の電子化 配信回数 ・Zoomの利用状況 昨年度 実習施設との打合せ 32.1% 	<p>授業評価(4点満点)</p> <p>2.3年次(旧カリキュラム)</p> <p>基礎分野 3.5 (-0.1)</p> <p>専門基礎分野 3.6 (±0)</p> <p>専門分野Ⅰ 3.8 (±0)</p> <p>専門分野Ⅱ 3.8 (±0)</p> <p>統合分野 3.9 (±0)</p> <p>臨地実習 3.8 (-0.1)</p> <p>1年次(新カリキュラム)</p> <p>基礎分野 3.4</p> <p>専門基礎分野 3.5</p> <p>専門分野 3.8</p> <p>臨地実習 3.9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ、新実習室：学内実習にて活用(成人・老年)フィジカルアセスメントの自主学習にも活用 ・新実習室のシミュレーター業者による説明会 ・クラウド型教育支援システム(Googleworkspace)の導入(令和5年度予定) ・ナースングスキル活用数：各看護学で前年度より上昇 ・教育用電子カルテの活用状況：学内実習での活用(成人・老年)、看護過程の展開(基礎・成人・母性) ・電子教科書(iPad)の活用状況 1年次 90.6%看護学 100% 2年次 82.1%看護学 100% 3年次 iPad 未使用 ・授業資料の電子化配信回数 後期 看護学はほぼ 100% 1年次 82.9% 2年次 89.3% ・Zoomの利用状況： 実習等での活用率 66.6% (学生カンファレンス) 実習施設との打合せ 36.5% ・新カリキュラム説明会 動画配信 3/25～5/31(視聴回数：181) 	<p>新規科目では講師と事前調整や授業後の振り返りを行いながら進めた。授業後、学生は人間関係構築への関心を高めることができていた。</p> <p>臨床判断能力の育成に向けては主に基礎看護学の看護過程総論・看護過程実践論において初期から事例を活用し自身の体を用いてイメージを図り、学生の気づきから学習を発展した。次年度までは旧カリキュラムの学生が在籍し移行期であるため安全に教育活動を実施していく。</p> <p>解剖生理学Ⅳは、既習学習を基に人体の機能をふまえた日常生活援助が考えられるよう主体的な学習展開とした。</p> <p>シミュレーション教育では新実習室において高性能モデル人形を導入した。次年度以降、各看護学の専門性の学習が増える。高性能モデル人形の有効活用とデブリーフィングの機会を増やし、看護実践能力の強化につなげていく。</p> <p>ICTの推進については、県のセキュリティの制約から学生が利用できるネットワークの整備に苦慮しているが、ICT推進委員会を中心に、学内Wi-Fiの整備に向けて検討を進めている。</p> <p>令和5年度はWi-Fiの整備に先駆けクラウド型教育支援システム(GoogleWorkSpace)を導入し、学外で授業資料や課題のやり取りを行える環境を整備する。Wi-Fi環境が整備されれば、学内での外部教育コンテンツやzoomの利用など、ICTを活用した授業構築が可能となる。ICTを活用しながら教育を受けてきた世代が学生の主体となりつつある中、Wi-Fiの整備は早急に解決すべき課題である。また、情報機器の活用とともに、看護職として必要な情報リテラシーを身に付け、安全かつ倫理観をもち情報を扱えることが大きな課題として次年度も継続していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価が高得点であることは望ましいが、実際に臨地実習の際に、座学で知った点を外部講師も含めてフィードバックするとよい。 ・教育活動は、ヒューマンケアリングに基づいた内容であることが明確で、教育理念を軸に新カリキュラムに対応している。 ・新カリキュラムへの移行期で、シミュレーション教育や教育用電子カルテの活用等、より実践に近い環境を整え、学習促進を図っている。 ・その中でもICTの活用、高性能モデル人形やデブリーフィングの機会を増やすなど看護実践能力の指導に力を入れてきたことがわかった。 ・ICTの推進には学内のWi-Fiの整備が不可欠である。早急に整備を進めてほしい。 ・電子教科書(ipad)の活用は予習や復習がしやすくなり、学生自身も効率よく学習できると思う。 ・ICT利用には情報セキュリティ対策が重要であり、その中で電子教科書の導入等、大変評価できる。 ・専門家の意見を参考に、情報セキュリティの規定策定、Wi-Fi設備・クラウド型学習支援システムの導入等により、学習効率が高まることを期待する。 ・ICTを活用した教育を受けている学生に対し、一般的な倫理観に加え、医療者としての倫理観や自覚が持てるような指導は、1年次から行うことが大切だと考える。 	<p>新カリキュラムが開始となり、外部講師との調整を図りながら取り組んだ。次年度は、看護学の専門科目が増えるため、ICTの活用、シミュレーション教育等、臨床判断能力の育成にむけ教育方法を工夫していく。</p> <p>新旧カリキュラムの移行期であるため、安全に教育活動を実施する。</p> <p>ICTの推進に向け、クラウド型教育支援システムの導入等、計画的に取り組んでいく。</p> <p>情報リテラシーに関する組織としてのルール化を図り、外部講師とも連携して取り組む。</p>	<p>教育方法等を工夫し、教育理念に基づいた新カリキュラムを円滑に実施する。</p> <p>ICTを活用した教育活動の推進とともに組織としてのルール化を図る。</p>

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		外部評価委員の評価 (3月10日)	総合評価(3月28日実施)																																																	
		具体的な方策	評価の視点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	次年度の取組方針																																																
1	教育活動	<p>2) 感染予防策を講じ、安全かつ円滑な教育活動の実施</p> <p>①講義 ②臨地実習 ③国家試験支援対策 ④教職員、学生の感染対策</p>	<p>①講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染状況に応じ、対面での授業を主軸とした講義形式を安全に実施する 特に演習やGWでの密回避、時間、人数と場所の調整 遠隔授業実施時の方法・効果、評価方法等、講師と調整 <p>② 臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染対策を講じ、対象や医療者との円滑なコミュニケーションの実施 段階的な看護実践能力向上 医療者、またはチームの一員としての態度の習得 臨地実習での基本的な約束事の遵守 本校としての実習での感染対策の整理 <p>③ 国家試験支援対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験ガイダンス(各学年) 模擬試験実施 冬季補講、講座の開催 メンタルサポート(面談・直前講義) <p>④ 教職員、学生の感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 「健康チェックシート」による自己管理の推進と徹底 1年次 感染予防学習会 新型コロナウイルス感染症に関する緊急連絡方法評価 外部講師の出講時の健康チェック依頼とマニュアル整理 ワクチン接種に関する情報発信とアドバイス 陽性者発生時の対応時のマニュアル作成(現時点) 	<ul style="list-style-type: none"> 対面授業 80%以上 遠隔授業 20%以下 ユニフィケーション共同授業の実施3回/年(基礎看護学 成人看護学 統合分野) <p>・臨地実習中クラスター0% (臨地実習実施率) 2021年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>実習内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3年全領域</td> <td>臨地(半日含む)</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>全て学内</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年</td> <td>成人I 臨地(半日含む)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>老年I</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>成人</td> <td>0%学内</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1年</td> <td>基礎I-1(半日含む)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>基礎I-2</td> <td>0%学内</td> </tr> <tr> <td>基礎II全て</td> <td>30.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・補習実習(全学年)7名</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率 100% 県内就職率 100% 成績 75点以上 学年平均点 80点以上 退学者数の減少(前年度比) 科目再履修者の減少(前年度比) <p>クラスター発生 0%</p>	学年	実習内容	割合	3年全領域	臨地(半日含む)	71.4%	全て学内	28.6%	2年	成人I 臨地(半日含む)	100%	老年I	50%	成人	0%学内	1年	基礎I-1(半日含む)	100%	基礎I-2	0%学内	基礎II全て	30.6%	<ul style="list-style-type: none"> 対面授業ほぼ100% 遠隔授業 0% ユニフィケーション共同授業の実施3回/年 教室 サーキュレータ、CO₂モニター各室に配置 ワークや演習時、フェイスシールド利用や配置整備 <p>・臨地実習中クラスター0% (臨地実習実施率) 2022年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>実習内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">3年全領域</td> <td>全て臨地</td> <td>80.4%</td> </tr> <tr> <td>半日臨地</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>一部学内</td> <td>10.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2年</td> <td>全て学内</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>成人I・II</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1年新入</td> <td>老年I 病院 介護老人保健施設</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td>48.3%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1年新入</td> <td>日常I</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>日常II</td> <td>79.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・補習実習(全学年)17名</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率 2/12 実施 県内就職率 100% 成績 前期のみ 1~3年次 平均 82点以上 退学者数 25%減(前年度比) 科目再履修者 3名 4月各学年ガイダンス実施 1年次 模擬試験 2回/年 2年次 模擬試験 4回/年 3年次 模擬試験 6回/年 メンタルトレーニング 1/25 <p>クラスター発生 0%</p> <p>新型コロナウイルスワクチン接種率</p> <p>1回目~3回目: 88.3%</p> <p>4回目以降: 11.2%</p> <p>新型コロナウイルス感染症罹患率25%</p> <ul style="list-style-type: none"> 「健康チェックシート」継続 1年次 感染予防の学習会 外部講師健康チェック依頼 学生へのワクチン接種指導 	学年	実習内容	割合	3年全領域	全て臨地	80.4%	半日臨地	6.1%	一部学内	10.2%	2年	全て学内	3.3%	成人I・II	100%	1年新入	老年I 病院 介護老人保健施設	100%	介護老人保健施設	48.3%	1年新入	日常I	100%	日常II	79.1%	<p>授業中の換気に努め、CO₂モニター等を配置し、学生主体で環境調整をできるようにした。感染者増加が予測される場合、速やかに時間割変更や授業を録画して後日授業するなど柔軟に対応した。今年度、感染状況下の中、共同授業を開催することができた。</p> <p>今年度も臨地実習ができるように調整を行った。しかし、施設により受け入れ条件が異なり、有症状継続により数名の学生が臨地実習を行えなかった。そのため、補習実習となったが、学生の学びが不利益にならないように可能な限り臨地での実習ができるよう施設との調整を行った。</p> <p>学生のヒヤリハットでは個人の記録管理が多かった。情報管理については今後も強化が必要である。</p> <p>各学年平均点は80点以上を超えているが、再試験の学生もあり、学力の差が生じている。低学年からの学習の定着を強化していく。3年生は各領域の補講や冬期講座を実施し、成績低迷者については個別で学習支援を行った。</p> <p>今年度も健康管理委員会を中心に感染対策に取り組んだ。ワクチン接種計画、陽性者発生時の対応について、国や県の方針に基づき、本校の対応を随時、見直ししながら、個別に対応した。昨年度の評価から外部講師に向けても健康チェックを実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況に合わせて授業形態を変えるなど柔軟な対応、様々な工夫で教育活動の円滑化に努力している。 対面授業100%、臨地実習中クラスター0%は評価できる。 状況に応じて、学生に不利益が生じないように授業や実習の工夫している対応力はすばらしいと思う。 新型コロナ禍で、8割以上を現場で実習できたこと、施設側の受け入れ条件が異なる状況下でクラスターを起こさず実習実施率が上回ったのは、教員の多大なる努力が実ったものと考ええる。 ヒヤリ・ハット事例の共有・改善策検討は今後現場に配属されたとき非常に活かってくる。特に看護師の仕事は人の生命に直結するので、今後も強化して欲しい。 臨地実習での個人情報の管理におけるヒヤリ・ハットが多いが、実習終了毎のチェック体制を整えていくことが大切なのではないか。 成績低迷者への個別支援はとても良い取組だと思う。少人数制の特色を生かしたきめ細かい教育を進めてほしい。 国家試験対策では、学力の差に対して個別学習支援により合格率の維持につながっていると考える。国家試験100%は評価できる。 学生生活の全てにおいて健康管理は大切であり、良く取り組んでいる。若年層の集団でクラスターの発生がなかったことは、教員、学生ともに適切な感染対策が行われ、医療教育機関としての取り組みがされていると考える。 	<p>感染拡大状況に合わせて対応し、クラスターの発生なく、教育活動を実施できた。次年度、国や県の方針に基づき、感染対策を講じながら円滑な教育活動に取り組む。</p> <p>実習施設の受け入れ条件が異なったが、できるだけ臨地での実習ができるよう実習施設と調整を行った。次年度も継続していく。</p> <p>ヒヤリ・ハット事例が多かった情報管理については、次年度も強化していく。</p> <p>学力低迷者には個別で学習支援を行った。低学年から学習が定着できるように支援体制を強化していく。</p> <p>教職員、学生ともに感染対策に取り組んだ。次年度は国や県の方針に基づき、本校としての対応を整理していく。</p>	<p>国や県の方針に基づき、安全かつ円滑な教育活動に取り組む。</p> <p>臨地実習が安全に実施できるよう実習施設との連携を強化していく。</p> <p>学習の定着に向け、低学年からの学習支援体制を強化する。</p> <p>本校としての感染予防対策を整理し周知徹底していく。</p>
学年	実習内容	割合																																																						
3年全領域	臨地(半日含む)	71.4%																																																						
	全て学内	28.6%																																																						
2年	成人I 臨地(半日含む)	100%																																																						
	老年I	50%																																																						
	成人	0%学内																																																						
1年	基礎I-1(半日含む)	100%																																																						
	基礎I-2	0%学内																																																						
	基礎II全て	30.6%																																																						
学年	実習内容	割合																																																						
3年全領域	全て臨地	80.4%																																																						
	半日臨地	6.1%																																																						
	一部学内	10.2%																																																						
2年	全て学内	3.3%																																																						
	成人I・II	100%																																																						
1年新入	老年I 病院 介護老人保健施設	100%																																																						
	介護老人保健施設	48.3%																																																						
1年新入	日常I	100%																																																						
	日常II	79.1%																																																						

	視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		外部評価委員の評価 (3月10日)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の視点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	次年度の取組方針
2	学校運営	<p>2. 教職員の視野を広げ、自ら行動し新たな課題に挑戦する組織運営を目指す</p> <p>1) 教職員一人ひとりが常にリスクマネジメントを行い不祥事の未然防止</p> <p>2) 教職員が自ら考え行動し自己研鑽に努め、目標管理の徹底と業務成果の向上</p> <p>3) 教職員の働き方改革の推進と効果的なタイムマネジメントの実施</p>	<p>1.朝/タミーティングの実施 2.職員共有フォルダの活用 3.教職員間のタイムリーな情報共有や検討 4.ヒヤリハット事例の共有・検討 5. 学生を含めたリスク管理(感染対策・事故防止) 6.研修会の実施(学習障害、パーソナル障害、パワーハラスメント、タスク・シフト/シェア等)</p> <p>1.各自目標管理の記入と自己点検 2.必要時面談やミーティングによる業務推進 3.業務実績検討や報告 4.上司との面談を活用し、PDCAサイクルを回す 5.紀要作成 6.教員研修</p> <p>1.働き方改革に向けての話合い 2.業務改善の検討と実施</p>	<p>・朝/タミーティング実施率</p> <p>・研修実施状況</p> <p>・アクションプラン作成 個人の目標管理</p> <p>・学校運営評価 自己点検・自己評価点の向上(昨年度 3.52点)</p> <p>・11月紀要作成</p> <p>・Skype会議の導入 ・テレワークの推進</p>	<p>・朝/タミーティング 100% ・庁内メールによる業務調整 ・クラスター発生 0% ・ヒヤリハット事例の共有・改善策検討 100%</p> <p><研修会の実施> 1.ハラスメント研修会「パワハラ・アカハラ研修」教員全員対象: ①5/24・27 ②8/24・25 「ハラスメントのない職場づくり」全職員対象:8/10 2.薬物に関する研修会 全学年・教員対象:4月 3.パーソナリティ障害の対応 教員対象:7/21 23名 4.タスク・シフト/シェア 教員対象:12/23 27名</p> <p>・アクションプラン評価 個人の目標管理 評価</p> <p>・学校運営評価 自己点検・自己評価 3.63点(昨年度より上昇)</p> <p>・紀要発行 15題</p> <p><教員研修> ・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル2名 セカンドレベル1名 看護教員継続研修 ・「臨床判断の基礎能力の学習をどう支援するか」8名 ・「組織の成長を目指すコーチング」1名 ・医療安全管理者研修3名</p> <p>・Skype会議の導入・実施 ・テレワークの推進等 ・他施設とのZoom会議実施</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により Skype会議やテレワーク等にタイムリーに変更し、クラスターの発生はなかった。ヒヤリハット事例が生じた際は速やかな報告、対応を行い、教職員間で対応策の検討・周知徹底に努めた。モバイル PCなどの情報管理等、組織全体の安全対策をさらに強化していく必要がある。</p> <p>近年、アカデミックハラスメントが問題視されている。特に看護師養成所においては、対象の生命に関わる職務であることから、教員、学生互いにストレスフルな環境下であることを認識した対応ができるよう研修を実施した。今後も継続していく。</p> <p>組織の今年度の運営方針、強化内容を全職員で共有して取り組めるように昨年度よりアクションプランを作成している。アクションプランの2年間の取り組みの評価では、同じフォーマットを用いたことにより、組織の運営方針の統一化が図れた。その結果、今年度の運営方針に基づき、同じ目的に向かって取り組んだことで、学校運営評価の自己点検・自己評価も昨年度より評価点が向上した。教職員個々の具体的な目標管理や周囲との連携について強化が必要である。</p> <p>働き方改革に向け、教職員間で業務内容を見直し、業務改善を行った。次年度も連携を強化し継続していく。</p>	<p>・コロナウイルスによるクラスター発生0%の為、今後も引き続き感染対策を徹底してほしい。</p> <p>・リスクマネジメントにおいては、ヒヤリハット事例に対し速やかな対応がされている。</p> <p>・患者からのセクハラの可能性が否定できない事例の際も適切に対応していた。</p> <p>・教職員の研修が実施され、日ごろから視野を広め、自発的な行動を心がけて頼もしく思う。</p> <p>・コロナ禍で、平時よりも業務調整等が増えたと思うが、そのような状況下でも研修会の開催や外部研修への参加など、教職員の資質向上への取組は大変評価できる。</p> <p>・アクションプランの作成・評価により、組織の運営方針の統一化が図れ、学校運営評価のすべての項目で上昇したことは評価できる。</p> <p>・統一されたアクションプランの可視化により、自己における役割が明確になるなど良い成果をもたらしている。</p> <p>・今後の課題として教員が自信を持ち遂行するための自己研鑽の重要性から、看護教育の研修の他、様々な視点から学生を教育できる人材育成に努力されている。</p> <p>・教員研修など複数名が参加し、良い学校運営に教員全体で取り組んでいる</p> <p>・コロナ禍で感染予防や業務改善が求められ、WEB授業の対応等、教員はストレスフルな状況にあったと思う。メンタルヘルスが心配である。</p>	<p>教職員間での連携、研修会等での学習を重ね、リスク管理に取り組んだ。事故防止、情報管理等、リスク管理についてさらに強化していく必要がある。</p> <p>今年度の運営方針を全職員で共有し、業務に取り組んだ。教職員個々の目標管理に基づいた自己研鑽ができるよう継続的に支援していく。</p> <p>働き方改革に向け、教職員間で連携しあいながら業務改善に取り組んだ。次年度、メンタルヘルスを含めた連携を強化し、働き方改革の推進に取り組む。</p>	<p>教職員のリスク感性を高め、組織としてのリスク管理を強化していく。</p> <p>教職員一人ひとりが自己研鑽に努め、組織として業務成果の向上を目指す。</p> <p>職員間での連携を強化し、働き方改革の推進を行う。</p>

	視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		外部評価委員の評価 (3月10日)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の視点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	次年度の取組方針
3	学生支援	3. 学生とともにつくる学校運営を実施	<p>1. 学校行事 1) やまゆり祭開催 (R4. 7. 30) 2) 自治会、国家試験対策や健康管理委員会等、学生を主体とした委員会活動</p> <p>2. 就職支援 1) 各学年ガイダンスの実施 2) 3年次模擬面接の実施 3) マナー講座 4) 卒業期研修 5) キャリア支援 6) 卒業生への支援</p> <p>3. スクールカウンセリング</p> <p>4. 奨学金貸与・給付</p>	<p>やまゆり祭 参加者数 やまゆり祭クラスター0%</p> <p>委員会活動 開催回数</p> <p>・基礎力リサーチ 1年次 ・社会人基礎力アンケート 伸び率</p> <p>3年次 県内就職率 100%</p> <p>ユニフィケーション教員 新入職研修等に参加</p> <p>相談対応状況 申請対応状況</p>	<p>1. やまゆり祭開催 (R4. 7. 30) 参加者人数 260名 県事業ねんりんピック協賛地域住民に向けた健康増進のための企画を実施</p> <p>・基礎力リサーチ：年2回実施することで学生の学習支援、生活支援を行った</p> <p>2. 就職支援 各学年就職ガイダンスを実施 ・3年次模擬面接 全員実施 就職者 99% (R5.1 末現在) 県内就職率 100% 進学者 4% ・2年次社会人キャリア面接</p> <p>学生への研修会 ・ハラスメント研修 1年次 12/19 2年次 1/5 ・マナー講座 1年次実習前 ・レジリエンス 3年次 6/27 ・卒業期研修 2/28 タスク・シフト/シェア、薬物に関する法的責任 ・3月卒業生の集い(案) ユニフィケーション教員 新任看護師支援(卒業生含) ・スクールカウンセリング 2回/月 利用率 7.5%</p> <p>・奨学金貸与・給付 相談対応 100% 申請対応 100%</p>	<p>今年度、事前予約制にて3年ぶりに学園祭(やまゆり祭)をねんりんピック2022と協賛し開催し、ねんりんピックの広報活動に参画した。学生を中心に主体的に取り組むことができ、次年度も継続して支援していく。</p> <p>年々、複数回就職試験する学生数が増加している。低学年からの就職支援や学生の背景や特性に合わせた個別支援を今後も強化していく。 例年、やまゆり祭に卒業生への支援を行っているが、感染を考慮し、今年度は3月に卒業生の支援を行う予定である。</p> <p>昨年と比較しカウンセリングの利用率は変わらない。年々、コミュニケーションや生活を整えることが難しい学生の状況があり、メンタル面の脆弱さが目立つ学生に対し、保護者も含めきめ細やかな支援が必要になっている。それに伴い、家庭環境・経済的な課題を抱えた学生が増加している。奨学金に関しては、説明会での情報発信や相談等を通じて、必要とする学生の利用に繋げている。今後も学生の学びを継続できるよう支援に努める必要がある。</p>	<p>・学校行事において学生が活動することは、学生の主体性の向上や学生間の連携の促進、学校外の方々との協働、連携を学ぶ良い機会になると考える。</p> <p>・就職に際しての個別支援は少人数制のもとでは必須だと思う。今後も一層強化して欲しい。 ・県内就職率 100%であり、県内の医療を支える看護師を育成する使命を果たしていると考え。 ・近年コロナの影響もあり他者との関係性が希薄になる傾向だが、ヒューマンケアリングの理念に基づき、日常から人との関係性を大切に学生への支援ができていると推察される。 ・コロナ禍でも、工夫をしながら学生の主体性を育み、社会人の基礎となる準備を段階的に進めている。</p> <p>・学生のメンタル状況を確認する事は重要である。教員が学生の心の変化を常に観察し声をかけ、話す機会をつくる必要があると思う。 ・多様化する学生の背景に対して保護者を含めた支援により、退学者の減少につながっているのではないかと。 ・学生へのメンタル支援、経済的支援など、学生への幅広い個別支援は他校との競争の中で、学校のセールスポイントになる。今後も一層強化してほしい。</p>	<p>学校運営に学生が参画することで主体性や他者との連携等、社会性を育む機会となっていた。次年度も継続して支援していく。</p> <p>低学年から学生の背景や特性に合わせた就職支援や卒業生への継続支援を強化していく。</p> <p>メンタル面の脆弱さや生活面・経済面で課題がある学生が増え、保護者も含めた支援が必要になっている。学生の学びを継続できるよう支援体制を強化していく。</p>	<p>学生の主体性・社会性が向上できるよう、継続的に支援する。</p> <p>学生状況を把握しながら、早期に対応できるよう支援体制を強化する。</p>

	視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		外部評価委員の評価 (3月10日)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の視点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	次年度の取組方針
4	入学生確保	<p>4. 学生確保対策強化の継続</p> <p>1) 効果的かつ実効性のある広報活動</p> <p>2) 入試を実施し、学生の確保</p>	<p>1. 高校訪問の実施</p> <p>2. オープンキャンパスの内容の見直し 学生と共に実施</p> <p>3. ホームページの改定</p> <p>4. 指定校推薦の方法等見直し</p> <p>5. インスタグラムによる広報活動</p> <p>1. 入試委員会の開催</p> <p>2. 入学案内の発送</p> <p>3. 入学試験の実施</p> <p>4. 入試形態の見直し</p>	<p>1. 高校訪問、ガイダンス 参加数上昇</p> <p>2. オープンキャンパス 参加者数増加</p> <p>3. ホームページの更新回数 上昇</p> <p>入学受験者数の増加 入学辞退者数減少 (一般入試のみ) 入試形態見直し後の応募者数の増加(来年度以降)</p>	<p>1. 指定校訪問(17校/43校) ・高校ガイダンス 21校 対象生徒数計 139名</p> <p>・電話訪問(19校)実施</p> <p>・高校生インターシップ受け入れ(22名)</p> <p>2. オープンキャンパス 5回 開催 参加者数合計 465名</p> <p>3. ホームページ更新回数 18回(2022.4月-8月) よこ看HPトップページ ページビュー数 合計 26,614回(平均173.9回)</p> <p>4. 指定校推薦の方法等見直し</p> <p>5. 5/26～インスタグラム開始 更新回数 28回、 登録者数 172人 動画再生回数 平均130-180回</p> <p>入学受験者数 昨年より減 一般入試の受験者数 30%減</p> <p>・「合格者のつどい」 1/28.3/4 2回開催 1回目 54名参加</p> <p>・入学前教育プログラム 申し込み 54名</p>	<p>全体の受験者数は減少し定員120名の合格を出すことは厳しい状況だが、指定校枠を設け、積極的に高校との関係づくりや本校のアピールを行い一定の効果があった。</p> <p>今年度は、現在規定数の指定校入試受験者は確保できたが、今後も確保方策を考えていく必要がある。</p> <p>学生主体のオープンキャンパスやインスタグラムは、学校の周知や本校の魅力につながっていた。次年度も内容を見直しながら継続していく。</p> <p>入試形態別の応募者は各々減少がみられ、今後確実な応募者確保は、指定校枠と社会人入試と考える。次年度に向け、指定校枠の見直し、指定校枠の拡大、社会人入試枠の施設長推薦等の入試形態の検討を進めていく。</p> <p>今年度より「合格者のつどい」を学生主体で実施した。在学生から本校の魅力を伝えることで、併願者へのアピールを図り、併せて合格者に対する入学前の支援を行った。来年度以降も学習面を含めた入学前支援の強化に努めていく。</p>	<p>・少子化に伴い、受験者数の減少は多くの看護専門学校の課題であると考ええる。</p> <p>・学生主体のオープンキャンパスの開催やインスタグラムの活用は、現代の若者に対する対応であり評価できる。学校運営に学生の参画もポイントが大きい。</p> <p>・ホームページやインスタグラムは貴校の魅力を十分に発信し切れていない。SNS等の情報発信を学生と相談しながら伝えられるとよい。</p> <p>・学校のパンフレットには、もっと楽しそうに過ごしている姿の写真を載せてもよいと思う。</p> <p>・大学にはない「きめ細やかな支援」を伝えていくことも大切である。</p> <p>・少子化の傾向で受験者数減少はやむをえないが、看護師確保に向けて、本校における社会的役割は大きい。指定校推薦、社会人入試の増枠への対応が妥当と思われる。</p> <p>・学校の魅力を看護補助者等、病院と協力していく工夫も重要だと考える。</p> <p>・「合格者のつどい」は、入学前の不安軽減ができ、大変良い取り組みである。</p>	<p>入学生確保に向け、学生が学校運営に参画し、オープンキャンパスの開催やインスタグラムを配信したことは効果的であった。ホームページやインスタグラム等、本校の魅力が発信できるような内容の工夫をしていく。</p> <p>次年度に向け、指定校枠の拡大、社会人入試枠の施設長推薦等の入試形態の検討を進める。</p> <p>入学前の支援は効果的であった。次年度も学習面を含め、入学前から継続した支援を実施していく。</p>	<p>次年度も学生とともに学校運営の広報活動の工夫に取り組む。</p> <p>指定校枠の拡大等、入試形態の検討を進めるとともに、入学前からの支援体制を強化する。</p>
5	社会貢献・地域貢献	<p>5. 学生が生き活きと輝ける場を支援する。</p>	<p>1. 学生による社会貢献</p> <p>2. 教員による社会貢献</p> <p>3. 地域貢献</p>	<p>ボランティア参加</p>	<p>1) ねんりんピック 11/12、13 1.2年次生 延べ95名 教員 延べ8名</p> <p>2) みなと赤十字主催総合防災訓練 学生8名</p> <p>3) アレルギー児サマーキャンプ 8月 学生6名</p> <p>4) やまゆり祭 健康支援 熱中症、血管年齢等、</p> <p>・実践教育センター教員・教育担当者養成課程</p> <p>・神奈川県看護協会ナースセンター 潜在看護師スキルアップ研修 等の講師 延べ22名</p> <p>二俣川地区県機関情報 交換会1回/年 災害備蓄</p>	<p>感染対策を講じながら、ボランティア活動に参加できるように支援した。ボランティア活動を通して学生自身も周囲との連携や社会性を育むことにつながった。次年度も継続して支援していきたい。</p> <p>本校は神奈川県看護師養成所として本校の教育活動を幅広く伝えていく役割がある。</p> <p>外部への発信は教員としての視野を広げることにもつながる。新カリキュラムが開始となり、さらに教育活動の実際を発信していく</p>	<p>・ボランティア活動等を通じて自分たちが社会で求められる立場にあると再認識できることは非常に有意義である。</p> <p>・学生による社会貢献は、地域との連携の実際が体験できる場である。クリニック等、地域で働いている方との交流を増やせるとよい。</p> <p>・地域との交流は始まったばかりである。今後の強化を期待する。</p> <p>・さらに「看護の魅力」を外部に発信し、発展させていただきたい。入学生確保にもつながると思う。</p>	<p>学生による社会貢献・地域貢献は地域との連携や社会性を育むことにつながる。次年度は、より地域との連携を強化できるよう支援していく。</p> <p>県の教育機関として教員による教育活動の実際を外へ発信していく。</p>	<p>学生・教員ともに地域との視点をもち、社会貢献・地域貢献に取り組む。</p>